

響け 伝統民謡 魅惑の音色

祖母と孫が立ち上げたふるさと民謡会
ただちひろ
 講師は小学6年生 多田 智大さん



①～⑩まではふるさと民謡会稽古の様子
 ◎敬老会に呼ばれての演奏会
 ⑩三味線を弾く多田 智大さん

「分かります、何も考えずに目ぼれた感じでした」と話していました。由喜子さんが孫と一緒に趣味の民謡を楽しめる、

民謡のどこにそれほど魅力を感じたのか智大さんに尋ねると「目ぼれた感じでした」と話していました。由喜子さんが孫と一緒に趣味の民謡を楽しめる、

に協力してもらって、子どもや同世代の民謡仲間をどんどん増やしたい」と意気込んでいます。

祖母の趣味に一目ぼれ 一緒に三味線を弾く楽しさ

趣味の民謡を習っていたおばあちゃんの三味線を見て、当時小学校1年生だった智大さんは「これなあに」と興味津々。ちよつと教室の発表会があつて、智大さんを連れていく事にしました。

出演者の皆さんに可愛がってもらったし、遊びながら出演準備などを手伝ってくれましたが、由喜子さんは心の中で「途中で飽きてしまふかな」と心配していました。結果は由喜子さんの心配とはうらはらに、おばあちゃんと一緒に三味線を習うようになった。

民謡のどこにそれほど魅力を感じたのか智大さんに尋ねると「目ぼれた感じでした」と話していました。由喜子さんが孫と一緒に趣味の民謡を楽しめる、

小学生が中心の民謡会が誕生 子どもたちに魅力を広げたい

三味線と唄を中心に、民謡を楽しむ「もりやまふるさと民謡会」は多田由喜子さんと孫の智大さん(小学6年生)Ⅱ下之郷町Ⅱが昨年10月に立ち上げました。

由喜子さんは「智大から民謡の会を作りたいと相談を受けて、同じ民謡を愛する仲間として、また祖母としてやりたい事をできる限りやらせてあげよう、応援しようと思いました」と話していました。

活動会場の市立図書館多目的室に、三味線の稽古場を3席、唄の練習席とテーブルや椅子を配置。民謡の講師は智大さん、由喜子さん、市川照子さんの3人。市川さんは由喜子さんの民謡仲間でお友達。子どもたちにも民謡の魅力を広めたいという趣旨に賛同して講師のお手伝いに来てくれています。

初めてわかる三味線の音色 「やっぴんやっぴん」の手応え

伝統文化の世界では高齢化が問題となっていますが、練習会

と喜んだのも最初だけ。みるみる上達しておばあちゃんを飛び越えていきました。

由喜子さんは智大さんについて「上達するのがとても早く、本当に民謡が大好きなのだというのが分かりましたが、そんなに猛練習をしているという印象はありません」と言います。民謡に打ち込む智大さんを見守るお母さんも「学校の勉強や宿題なども言われなくてももしっかりしているの、やるべき事をきちんとやっていたうえで好きな事も徹底的にやるというスタンスを守っている子です」と話していました。

民謡と三味線の毎日 自由が魅力の伝統文化

智大さんが好きだったのは三味線。唄は習いはじめたころは嫌だったといいます。でも、先生に言われて仕方なくやっているとうちに面白いと思えるようになっていきました。

おばあちゃんと一緒に習っていたのは「西もの」といわれる民謡が中心でしたが、ある舞台で津軽三味線の演奏を観て惹かれ、お風呂場に力セットを持ち込んで聴いたり唄ったり。ついに津軽三

場に次々とやってきたのは6人の子もたちです。民謡を聴いた事もない同級生が智大さんに誘われて、お稽古に使う三味線も借りて参加するようになりました。

パチの持ち方、弦の抑え方、独特のリズムと節回し、西洋音楽に慣れた今どきの子どもには難しさや新鮮さがありました。もちろん覚えやすいものから始めますが、サクラサクラしか弾けない仲間にも容赦なく仲間内で三味線と唄の発表をしようとうとハッパをかけていました。

民謡の生徒になった同級生は「一回やってみたら意外と楽しい。内緒だけど学校の音楽よりダンスで楽しい」「日本独特の音楽だからかな、なんか落ち着くのかな、何でか分からないけどやっているのが面白い」と民謡の魅力がすっかり伝わっているようでした。

最近参加した3歳の男の子も三味線や鈴などの楽器にふれさせてもらって大喜びしていました。

智大さんは「大人と子どもの格差を超えて自由にフラットに民謡を楽しみたい」として、会の運営も中心となってさまざまな仕事をしています。「おばあちゃん

味線を習い始めました。

借りていた専用の三味線の皮が破れてしまった時、お母さんが新しい三味線を買ってくれました。安いものではないから「これはヤバいぞ」と思って頑張るようになり、昨年のコンクールの時には朝早く起きて練習していたと言います。今では譜面さえあれば150曲くらいは演奏できるし唄えるようになったそうです。発表会やコンクールなどの舞台でどんどん実績を作っています。

智大さんは現在、2つの民謡教室に通い、ふるさと民謡会を立ち上げ、さらに小学校に伝統音楽クラブを立ち上げることができました。中学生になったら伝統民謡部を創部したいと考えています。おばあちゃんと一緒に市内外の敬老会や施設に出掛けてボランティア演奏の活動もしています。

三味線と民謡の毎日を過ごしている智大さんは、「ここまで惚れ込んだ民謡の魅力は民謡は昔から受け継がれてきたもので節回しなどの決め事はあるが自由な世界。日本の伝統にふれる機会として、ふるさと民謡会でも一人の演奏家としても大事にしていきたい」と話していました。